

大河ドラマ『ジョン万』を契機に、人口減少社会における組織活動の再構築の可能性を考察する。自治体では人員不足や自治研活動の縮小が課題となる中、ドラマを地域への関心を高める文化コンテンツとして活用し、「関心→関係→参加」の循環を生み出すことで、地域課題への参画や組織強化につなげる可能性を、本市の取組を踏まえて検証する。

自治研・地域運動について

－大河ドラマ『ジョン万』と組織活動の再構築－

高知県本部／土佐清水市職員労働組合

自治研・地域運動について

－大河ドラマ『ジョン万』と組織活動の再構築－

高知県本部／土佐清水市職員労働組合

はじめに

土佐清水市は、高知県西部に位置し、黒潮の影響を強く受ける温暖な気候のもと、豊かな海洋資源と変化に富んだ海岸地形が広がり、古くから漁業や海運と深い関わりを持って発展してきました。また、市内には四国最南端として知られる足摺岬があり、断崖絶壁の景観や灯台から望む水平線は観光資源としても高い価値を有しています。さらに、遍路道の一部として歴史的・文化的背景も持ち、自然と人の営みが共存する地域としても知られています。

しかし、近年では65歳以上の人口割合が50%を超え、過疎化、高齢化が深刻化。限られた財源の中で地域の持続可能性をどう確保するかが問われるとともに、これらの課題に対し、産業振興と観光の高付加価値化、定住促進策の強化など総合的な取り組みが求められています。

その中での市出身の偉人・中濱万次郎の大河ドラマ化。本稿では、それにむけた本市の取り組みやその問題にどのように取り組んでいくかを考察します。

	2006年		2016年		2026年
土佐清水市人口	17,928人	➡	14,171人	➡	11,002人
市組合員数	286人		224人		183人



足摺岬の灯台



シコロサンゴ

① 地域運動の背景（現代社会の状況）

日本社会は急速な人口減少と地域の弱体化に直面しており、自治体財政や公共サービスの維持が困難になりつつある。

この状況の中で組織活動も、従来の「労働条件改善中心の組織運動」から、地域社会の維持・再構築に関わる運動へと役割の転換を迫られている。

② 地域課題（組織活動の構造変化）

現在の組織活動は以下の課題を抱えている。

- ・ 組織活動の多様化と人員不足による縮小
- ・ 県本部、支部間の連携の希薄化
- ・ 若年層の参加動機の多様化と分散
- ・ 従来型の「組織加入→活動参加」モデルの限界

→ 自治研活動も「研究機関」から「運動インフラ」への転換が求められている

③ 活動のきっかけ (文化コンテンツとの接続)

NHK大河ドラマ『ジョン万』の制作決定を契機として、文化コンテンツが地域運動に与える影響に着目した。

特に、主人公像や歴史的物語を通じて、

- ・ 地域への関心形成 — 中浜万次郎学習会の増加
- ・ 関係人口の創出 — 中浜万次郎が辿った自治体との交流
- ・ 自治体、市民、組合の接点形成 — 「ジョンマンEXPO」

といった「文化的媒介機能」が注目されるようになった。



「ジョン万」推進協議会

④ 組織活動の転換

従来の自治労運動は「組織動員型」であったが、現在は以下のような循環モデルへの転換が求められる。

作品視聴・関心

→ 地域理解の深化

→ 自治体・地域への関心

→ 参加・関与の発生

さらにSNSやコミュニティ形成を通じて、緩やかなネットワーク型の参加構造が生まれる。

→ 文化コンテンツを「消費対象」ではなく「運動資源」として再定義

⑤ 実践的展開 (フィールド型自治研)

組織活動は以下のような方向へ拡張される。

- ・ フィールドワーク型の地域参加
 - ・ 観光、教育、市民活動との横断的連携
 - ・ 体験、交流を重視した学習と実践の融合
 - ・ 「恐竜王国福井」などの地域事例に見られる実践型展開
- 知識中心から「身体性を伴う運動」への転換

⑥自治研ルネサンス

自治研は単なる調査研究ではなく、組織活動の基盤となる「運動資源」である。

今後は、

既存運動の維持装置ではなく再構築装置

ファンダム文化と接続する新しい社会運動

人口減少社会における地域再生の媒介

として位置づけられる。

■ まとめ

大河ドラマ『ジョン万』を契機とした文化的関心の拡大は、組織活動における新たな参加モデルを生み出す可能性を持つ。

自治研は「組織中心の運動」から、「関心と文化を媒介としたネットワーク型運動」へと再編されることで、人口減少社会における地域運動の再生に寄与する。



「ジョン万推進室」始動！！